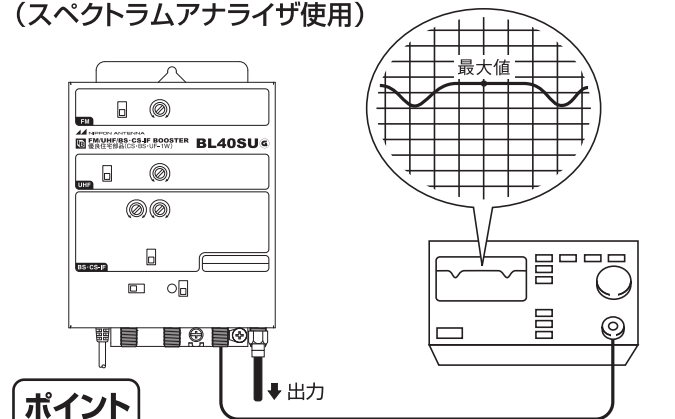


調整方法

③デジタル放送波の出力レベル確認方法 (スペクトラムアナライザ使用)



ポイント

- デジタル信号レベルは、デジタル対応のレベルチェッカーまたは、チャンネルパワーの測定可能なスペクトラムアナライザでご確認ください。
- チャンネルパワーなどの機能のないスペクトラムアナライザでデジタル信号を測定する場合は、それぞれ右のようにおこなってください。
- 補正値はスペクトラムアナライザの機種により、若干変わる場合があります。

- デジタル放送波の出力レベルを確認する場合、次のようにおこなってください。

スペクトラムアナライザを出力モニター端子に接続します。

確認したいチャンネルをセンターに合わせます。

●衛星放送の場合

スペクトラムアナライザは、SPAN (表示周波数幅) 50MHz、RBW (分解能帯域幅) 1MHz、VBW (映像フィルター) 300Hzに設定します。

最大値に補正値を加えた値が出力レベルになります。

- BS・110°CSデジタルの補正値 16.3dB
- CSデジタルの補正値 15.0dB

●地上波の場合

スペクトラムアナライザは、SPAN (表示周波数幅) 10MHz、RBW (分解能帯域幅) 100kHz、VBW (映像フィルター) 1kHzに設定します。

最大値に補正値を加えた値が出力レベルになります。

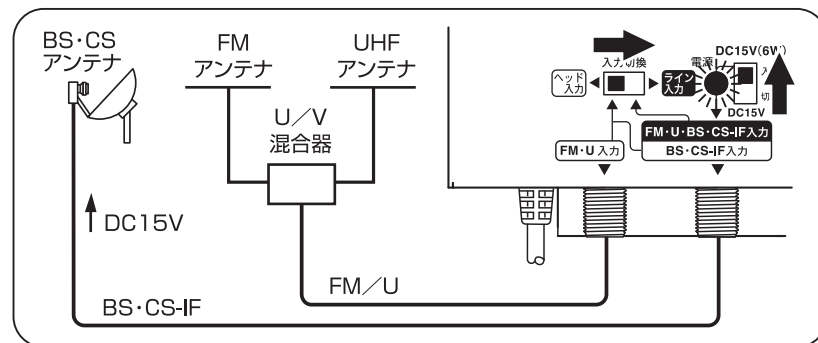
- 地上デジタルの補正値 19.2dB

出力モニター端子レベル=スペクトラムアナライザの最大値+補正値

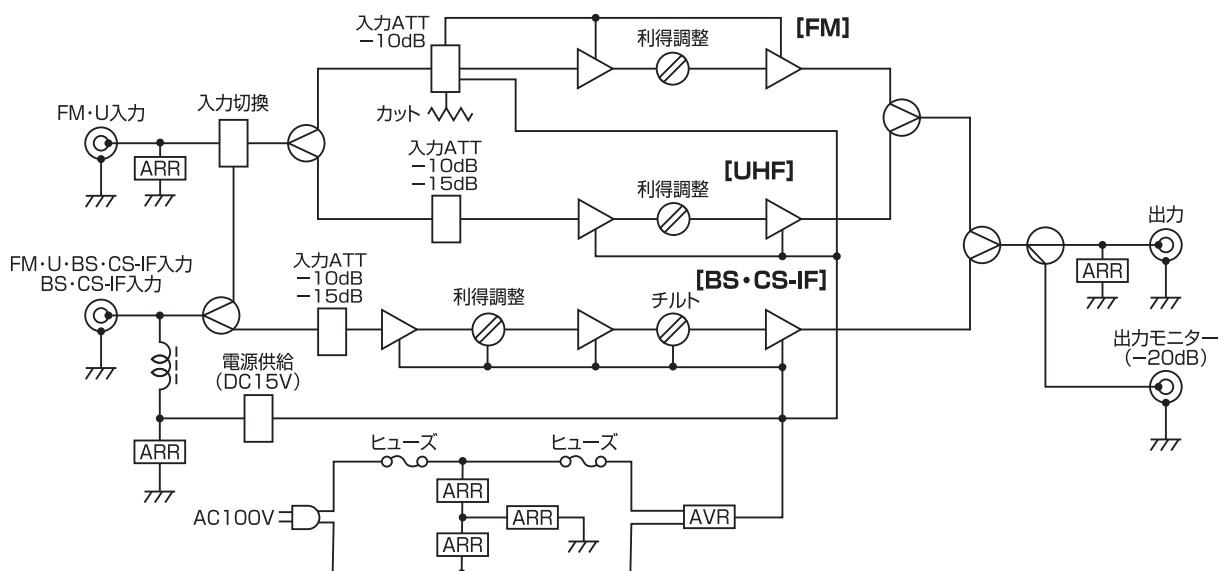
④電源供給操作

⚠ 注意

コンバーターへの電源供給の際には、先にケーブルを接続してから電源供給のスイッチを「入」側にしてください。電源供給をしたままのケーブル接続は、機器の故障や障害の原因となります。



系統図



お客様窓口

0570-091039

ナビダイヤルが利用できない場合は ☎(03)3893-5243

ご利用時間 9:00~12:00 13:00~17:30 (土・日・祝祭日・弊社休業日を除く)

日本アンテナ株式会社

本社/〒116-8561 東京都荒川区西尾久7-49-8 ☎(03)3893-5221 (大代)
(ホームページアドレス) <http://www.nippon-antenna.co.jp/>

※製品改良のため、仕様、外観の一部を予告なく変更することがあります。
7100530 平成24年8月

日本アンテナ

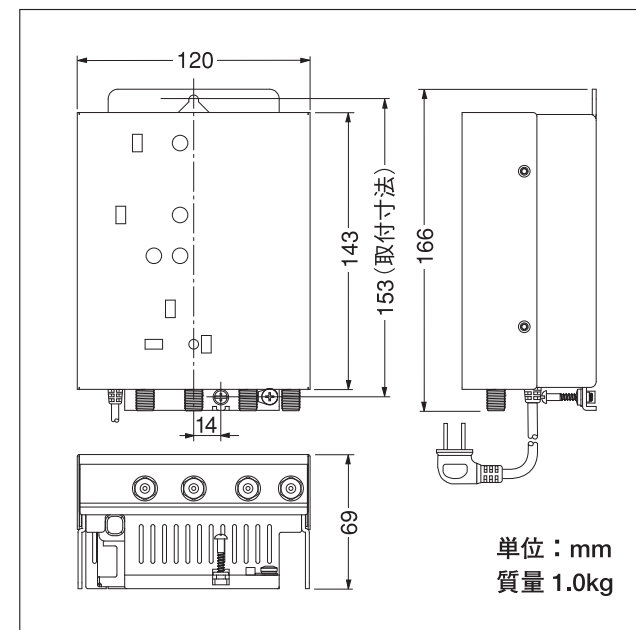
取扱説明書

このたびは日本アンテナ製品をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

- ご使用前にこの取扱説明書と施工説明書をよくお読みください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。

取扱説明書

外観および寸法図



取扱上の注意

取付工事は、専門の施工業者にご依頼ください。

メンテナンス

いつでも美しいテレビ映像をお楽しみいただくために、年に1回は専門業者に保守・点検をご依頼ください。

優良住宅部品

**テレビ共同受信機器
ブースター**

BL型式

日本アンテナ型名

CS・BS・UF-1W

BL40SU

目次

表紙	説明の始まるページ
〔取扱説明書〕	
外観および寸法図	1
取扱上のご注意	1
メンテナンス	1
安全上のご注意	2
特長	3
製品の保証	3
免責事項	3
性能規格	4
各部の名称	4
〔施工説明書〕	
設置場所・条件	5
収納箱への設置	5
取付方法	5
機能アースの接続	5
同軸ケーブルの加工方法とF型接栓の取付方法	6
ケーブルの接続	6
調整方法	7
系統図	8



優良住宅部品 (BL部品) とは
一般財団法人ベターリビングが優良住宅部品認定制度によって、品質、性能、アフターサービスなどに優れた住宅部品を厳重な審査に基づき認定した住宅部品です。さらに保証責任保険と賠償責任保険が制度化されていますので、安心してご利用できます。

安全上の注意

絵表示について

この「安全上の注意」、「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになるかたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

	警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。
絵表示の例		
		△記号は注意（注意・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は警告または注意）が描かれています。
		⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
		●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください。）が描かれています。

警告

- 
 - ぐらついた台の上や、傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。
- 
 - 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。また、同軸ケーブル重畳方式にて動作可能な機器は、表示された重畳電圧を供給してください。その際は電源プラグをコンセントから抜いて使用してください。
- 
 - 本器に水が入ったり、本器の内部がぬれたりしないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。
- 
 - 万一、本器を落としたり、破損した場合は、機器本体の電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 

接触禁止

 - 雷が鳴りだしたら、アンテナ線、機器には触れないでください。感電の原因となります。
- 
 - 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり（熱器具に近づけたり）引っぱったりしないでください。電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
- 
 - 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのままご使用になると火災・感電の原因となります。
- 

分解禁止

 - 本器の上面カバー（接続端子部カバーは除く）をはずしたり、本器を改造したりしないでください。また、本器の内部には触れないでください。火災・感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
- 
 - 万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。
- 
 - 万一、異物が本器の内部に入った場合は、まず、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。（特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。）

注意

- 
 - 湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所（調理台や加湿器のそば）に置かないでください。また、振動のある場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 
 - 本器の上に重いものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。また、本器が変形し、火災・感電の原因となります。
- 
 - 直射日光の当たる所、温室やサンルームなどの温度や湿度の高いところに置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 
 - 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- 
 - ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 
 - 移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて外部の接続コード（アンテナ線、機器間の接続コードなど）をはずしたことを確認の上、行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

調整方法

①調整時の注意

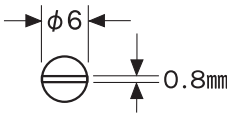
- 出力モニターは出力レベルより20dB少ない値を表示しますが、出力端子が開放状態や、施設の電圧定在波比が悪い場合は、出力モニターレベルが不正確になりますので、より正確なレベル測定を行う場合は、出力端子をご使用ください。

●入力レベルが規定値より大きい場合

【ブロックノイズ】などの障害が生じることがあります。

特にBS・CS-IF帯域の場合は、BS・CS放送自体に障害が出なくても、他の帯域に障害が生じることがあります。

●ボリュームの寸法



●入力オーバーの場合の対策

入力レベル調整、利得調整を使用し、定格出力レベルになるように出力レベルを下げてください。入力レベル調整、利得調整でも補えない場合は、別売のCS-IF対応アッテネーター（DC15V送電時は電流通過型）を入力端子側でご使用ください。

注意

- 利得調整などのボリュームのツマミは、径φ6mm以下のマイナスドライバーあるいは、調整用ドライバーを使用し、軽く回る範囲内で回してください。無理に回したり、押しつけると機器の故障の原因となります。

②調整

●入力レベルの調整

- BS・CS-IF標準入力レベルは73dBμVです。この値を超えている場合は、入力レベル調整〔ATT〕を切換、調整します。
- FM標準入力レベルは65dBμVです。この値を超えている場合は、入力レベル調整〔ATT〕を切換、調整します。
- UHF標準入力レベルは65dBμVです。この値を超えている場合は、入力レベル調整〔ATT〕を切換、調整します。

●出力レベルの測定および調整

- 出力モニター端子に測定器を接続します。測定値に20dBを加えた値が出力レベルです。
- BS・CS-IF入力レベルを標準入力レベルに設定した時、定格出力は103／113dBμV（1000／2602MHzの値）になります。利得調整ボリューム（G.C）を左に回すと、利得を10dB以上下げることができます。出力レベルは103／113dBμV（1000／2602MHzの値:デジタル36波伝送時）以下に設定してください。出力後のケーブル長があり、端末でのレベル差がある場合、チルトボリュームにより、最大8dB以上の傾きを持たせることができます。
- FM入力レベルを標準入力レベルに設定した時、定格出力レベルは95dBμVになります。利得調整（G.C）ボリュームを左に回すと、利得を10dB以上下げることができます。出力レベルは95dBμV（FM5波伝送時）以下に設定してください。
- UHF入力レベルを標準入力レベルに設定した時、定格出力レベルは105dBμVになります。利得調整（G.C）ボリュームを左に回すと、利得を10dB以上下げることができます。出力レベルは105dBμV（デジタル9波伝送時）以下に設定してください。

出荷時の設定

- FM（利得調整 最小、入力ATT 10dB）
- UHF（利得調整 最小、入力ATT 15dB）
- BS・CS-IF（利得調整 最小、入力ATT 15dB、チルト 0dB）
- 電源供給「切」側、入力切換 ヘッド側

同軸ケーブルのつなぎかた

◆用意するもの

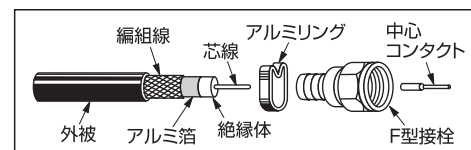
カッターまたはナイフ、ハサミまたはニッパー、ペンチ、圧着工具、スパナ。



- 芯線と編組線とをショートさせないように注意しましょう。
- 同軸ケーブルの加工は芯線や編組線をキズつけないようにご注意ください。また、このとき芯線が指に突き刺さらないようにご注意ください。
- 同軸ケーブルは、S-5C-FB、S-7C-FB相当以上の使用をお奨めします。
- 接栓は使用する同軸ケーブルに適したC15形のピン付き接栓をご使用ください。

S-5C-FB同軸ケーブルに弊社製ピン付F型接栓を取付ける場合の加工例（ケーブル、接栓共に別売品）

■各部の名称



- アルミ箔処理は絶縁体と同様に加工してください。

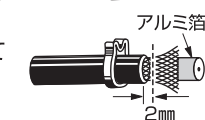
① カッター、ナイフなどで点線の部分をカットします。（深さ1mm程度）



② 外被の皮をむき、アルミリングを通しておきます。



③ 編組線をめくりあげて2mm残しカットします。



④ 編組線をめくり返します。



⑤ 編組線から2mmはなしてアルミ箔、絶縁体を切り、抜きとります。



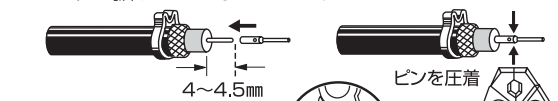
ポイント

- 絶縁体をカットするときは芯線をキズつけないように注意し、芯線と編組線が接触していないかをご確認ください。
- 芯線に付着物がないか確認し、付着物がある場合には、きれいにしてください。

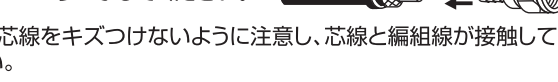


加工の際、切りくずの扱いや工具の使用には十分注意してください。思わぬケガの原因となります。

⑥ 芯線を4～4.5mmにカットし、中心コンタクトを芯線に根元まで挿入してペンチ、圧着工具などで中心コンタクトが抜けないようカシメます。



⑦ F型接栓をアルミ箔と編組線の間に挿入し、アルミリングをペンチなどでつまんでしっかりつぶしてください。

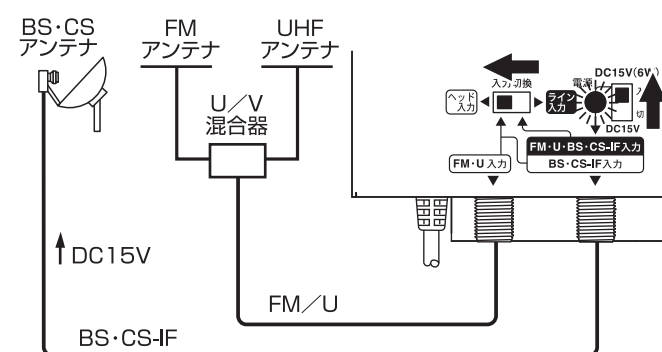


ケーブルの接続

- ① BS・CS-IF、FM/U信号が混合（ライン入力）されている場合は、入力切換スイッチをライン入りに切換、FM/U/BS・CS-IF入力端子にケーブルを接続してください。コネクターは軽く手で回した後、スパナなどで指定のトルクで固定します。
- ② BS・CS-IF、FM/U信号が別々（ヘッド入力）の場合は、入力切換スイッチをヘッド入りに切換、BS・CS-IF入力端子にBS・CS-IF信号のケーブルを接続し、FM/U入力端子にFM/U信号のケーブルを接続してください。コネクターは軽く手で回した後、スパナなどで指定のトルクで固定します。
- ③ 出力端子にBS・CS-IF、FM/U信号出力用のケーブルを接続してください。コネクターは軽く手で回した後、スパナなどで指定のトルクで固定します。

●ヘッド入力の場合

1. 図のようにケーブルを接続します。
2. 入力切換スイッチをヘッド側に切換えます。
3. 電源供給スイッチを「入」側にしてください。（橙ランプ点灯）

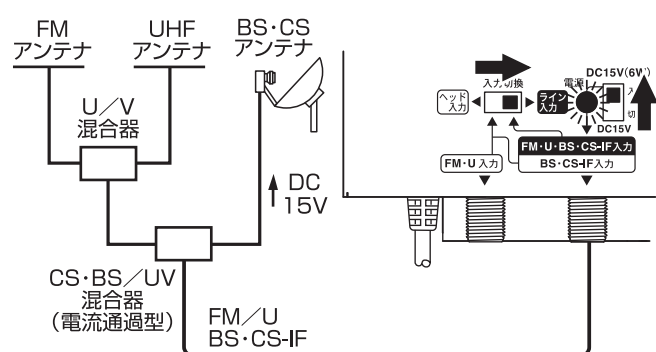


ポイント

ケーブルを接続する前に、電源供給スイッチが「切」側であることをご確認ください。（緑ランプ点灯）

●ライン入力の場合

1. 図のようにケーブルを接続します。
2. 入力切換スイッチをライン側に切換えます。
3. 電源供給スイッチを「入」側にしてください。（橙ランプ点灯）



●F型接栓締付トルク

2.0N・m（約20kgf・cm）



コネクターは必ず指定のトルクで締めてください。トルクの過多・不足は機器の故障や障害の原因となります。

特 長

- 本器はFM（76～90MHz）、UHF（470～710MHz）、BS・CS-IF（1000～2602MHz）を増幅する広帯域・高性能ブースターです。
- FM/UとBS・CS-IFは混合一本入力のライン仕様、別入力のヘッド仕様のどちらにも使用できます。
- BS・CSアンテナ用として、DC15V（6W）を送電することができます。
- 各帯域とも入力レベル調整（ATT）、利得調整（GC）が付いていますので、レベル調整が容易におこなえます。
- BS・CS-IF帯域にはチルトが付いていますので、ケーブル損失によるレベル差を調整できます。
- 出力モニター端子が付いていますので、放送を中断することなく、レベルチェックや利得調整ができます。
- 付属の木ねじを使用して簡単に、しかも確実に壁面に取付けることができます。

製品の保証

この製品の保証期間は、お引渡しの日から2年間です。

保証期間内に取扱説明書・施工説明書の記載事項に従った正常な使用状況で故障した場合、ご購入店または別紙のお問い合わせ先にお申し付けください。

免責事項

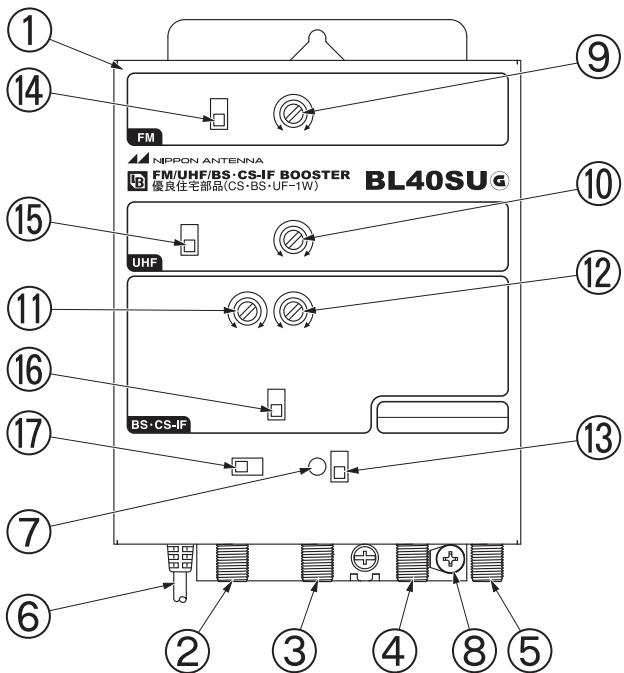
下記の場合は保証期間内でも有償修理となります。

- ①住宅、事務所、学校、病院、ホテル又は旅館以外で使用した場合の不具合。
- ②ユーザーが適切な使用、維持管理を行わなかったことに起因する不具合。
- ③メーカーが定める施工説明書などに基づかない施工、専門業者以外による移動・分解などに起因する不具合。
- ④建築躯体の変形など住宅部品本体以外の不具合に起因する当該住宅部品の不具合、塗装の色あせなどの経年変化または使用に伴う摩耗などにより生じる外観上の現象。
- ⑤海岸付近、温泉地などの地域における腐食性の空気環境に起因する不具合。
- ⑥ねずみ、昆虫などの動物の行為に起因する不具合。
- ⑦火災・爆発事故・落雷・地震・噴火・洪水・津波など天変地異または戦争・暴動など破壊行為による不具合。
- ⑧消耗部品の消耗に起因する不具合。
- ⑨電気の供給トラブルなどに起因する不具合。

性能規格

項 目	規 格			備 考
周波数帯域 (MHz)	76～90	470～710	1000～2602	
最大伝送容量 (ch)	5 (FM)	9 (デジタル)	36 (デジタル)	
標準入力レベル (dBμV)	65	65	73	
標準利得 (dB)	30以上	40以上	30／40以上 (1000／2602MHz)	
定格出力レベル (dBμV)	95	105	103／113 (1000／2602MHz)	全電力が+20dBm以下で運用のこと
入力レベル調整 [ATT] (dB)	－10	－10, －15		切 換
チルト特性 (dB)	――		0～－8以下 [1000MHz] 連続可変	
利得調整範囲 (dB)	10以上	10以上	10以上	連続可変
伝送帯域内周波数特性偏差 (dB)	帯域内で±3.0以内	任意の6MHzで±1.0以内 任意の100MHzで±2.0以内	任意の34.5MHzで±1.0以内 チルト直線に対し 全帯域で±2.5以内	
雑音指数 (dB)	10以下	8以下	10以下	
入出力インピーダンス (Ω)	75			
電圧定在波比 [VSWR]	3.0以下	3.0以下	2.5以下	
相互変調 (dB)	IM2	――	－31以下	定格出力レベル時
	IM3	－72以下	－71以下	定格出力レベル時
利得安定度 (dB)	±3.0以内			
ハム変調 (dB)	－50以下			
耐衝撃波	15kV 1.2／50μs			
出力モニター (dB)	－20±1.5		－20±2.0	
電源電圧 (V)	AC100V 50／60Hz			
コンバーター供給電源	――		DC15V 6W	
消費電力 (W)	10 (DC15V 送電時 17)			
使用温度範囲 (℃)	－10～＋40			本体周囲温度

各部の名称



●付属品 木ねじ 1本

部番	名 称
1	ケース
2	FM・U入力接栓
3	FM・U・BS・CS-IF入力接栓
4	出力モニター接栓
5	出力接栓
6	電源コード
7	電源／DC15V (6W) 送りランプ
8	機能アース端子
9	FM利得調整ボリューム
10	UHF利得調整ボリューム
11	BS・CS-IF利得調整ボリューム
12	BS・CS-IFチルトボリューム
13	DC15V (6W) 送りスイッチ
14	FM 入力ATT／カットスイッチ
15	UHF入力ATTスイッチ
16	BS・CS-IF入力ATTスイッチ
17	入力切換スイッチ

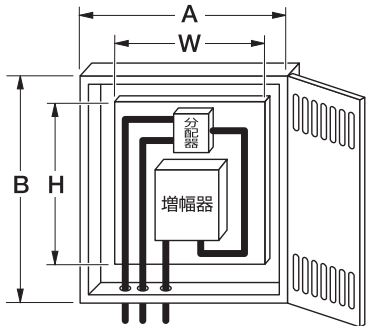
施工説明書

設置場所・条件

- 水中や雨水のかかる場所、高温 (40℃以上) の場所、有害ガスなどの発生する場所はさけてください。
- 増幅器は発熱しますので、熱のこもる場所はさけ、通風のある場所に設置してください。
- 電気配線、配線工作物の近くや、強い電磁波を受ける場所をさけてください。
- 放熱のため、同軸ケーブルの引き回しにより換気孔を塞がないよう、ゆとりある収納箱に設置してください。
- メンテナンスに容易な場所を選定してください。

収納箱への設置

- 収納箱に入れて使用する場合は、上下に防虫網付きの換気孔などのある収納箱で、下記寸法例の大きさのものを使用し、温度管理に十分注意してください。また、増幅器は収納箱の最上部を避け、換気孔より下側の位置に設置してください。



●推奨鉄箱 (木板) 寸法例

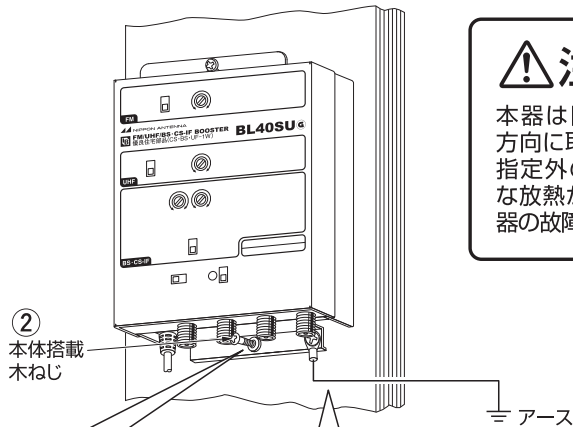
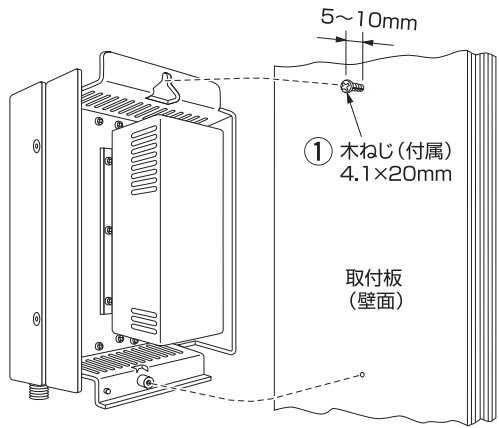
単位 : mm

タイプ	箱		木 板		種 別
	A	B	W	H	
1	700	700	600	600	本 器 1 台 4分配器1個
2	1000	500	900	400	
3	500	1000	400	900	

※収納箱の奥行は140mm以上のものをご使用ください。

取付方法

- ①付属の木ねじをねじ頭部分が少し浮くように木板に取付け、機器を引っ掛けてから本体上部を固定してください。
- ②上部を止めた後、本体下部をしっかりと固定してください。



⚠ 注意

本器は図のように必ず縦方向に取付けてください。指定外の取付けでは十分な放熱がおこなわれず、機器の故障の原因となります。

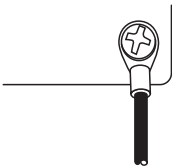
ポイント

本体下部にあらかじめ木ねじが付いていますので、簡単に取付けることができます。



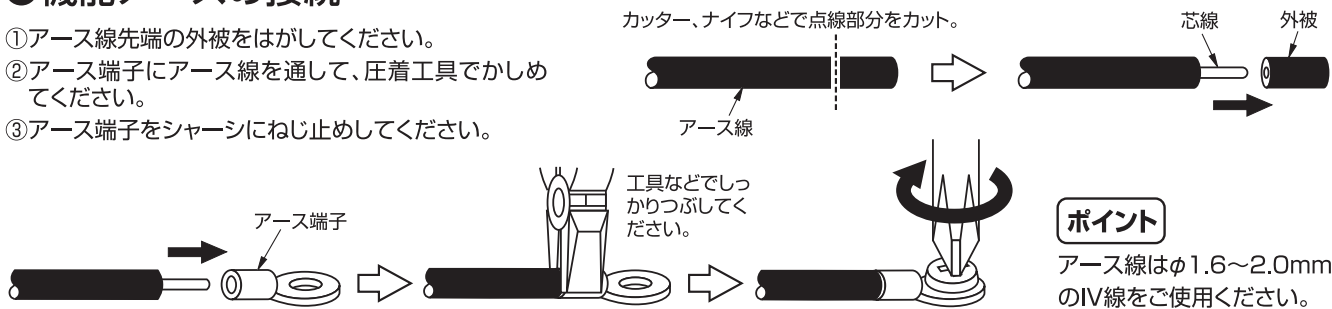
⚠ 注意

アース接続は必ずおこなってください。接地がおこなわれないと機器の故障の原因となります。



●機能アースの接続

- ①アース線先端の外被をはがしてください。
- ②アース端子にアース線を通して、圧着工具でかしめてください。
- ③アース端子をシャーシにねじ止めしてください。



ポイント

アース線はφ1.6～2.0mmのIV線をご使用ください。